

圏央道開通でさらなる賑わいを(平成26年6月1日号掲載)

豊かな生態系を誇り、年間約300万人もの方々が訪れる高尾山。身近な自然に癒しを求める多くのハイカーたちで、連休中はいつにも増して大賑わいでした。

その玄関口となる高尾山口駅は、市外からのお客様にとって、まさに“まちの顔”。報道各社からも注目されましたとおり、京王電鉄の駅舎改修と連携し、市は観光案内所などを一新する方針です。建設が進む「高尾の里拠点施設」と合わせ、観光地としての魅力は一層高まっていくものと、大いに期待しております。



6月28日に開催された開通式での通り初め

こうした中、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)では、高尾山インターチェンジ(IC)と相模原愛川IC間の約15キロメートルが、いよいよ6月28日に開通の運びに。東名高速道路へのアクセスが飛躍的に向上し、交通の要衝である八王子は、これまで以上に重要な位置付けとなるに違いありません。

一方、八王子西IC周辺では流通拠点整備に向け、計画が着々と進められております。先日開催された企業立地勉強会には90社が参加するなど、大きな期待が寄せられており、計画を一日も早く実現するべく、決意を新たにしました次第です。

ヒトを呼び込み、モノの流れを加速させる圏央道。開通効果を活かし、地域にさらなる賑わいと活力を生み出せるよう、積極的に取り組んでまいります。